

広 報 費

支払日	内 容	金 額 (円)	領収書No.
30 6.5	会報紙印刷代 (会報 No.5)	64,260	1
6.18	企画料 (会報 No.5)	10,000	2
31 1.14	企画料 (会報 No.6)	10,000	3
1.28	印刷代 (会報 No.6)	110,160	4
1.30	配送代 (会報 No.6)	64,800	5
2.27	追加印刷代 (会報 No.6)	29,700	6
	計	288,920 円	

合 計	288,920 円
-----	-----------

“花溢れた”まちに

新本庁舎、駅ビルと中心地の外観が変化。一方、アーケード街は昭和のたまたまい。



6月末引っ越しの市役所本庁舎

動き出す 再開発計画

駅北口の再開発計画が、民間サイドから上がっている。ホテル、ホール、マンションと1.3haに107億円。

市民や幅広い専門家の意見を反映できているのか?

駅ビルとの統一性といえば、元東大副学長で、建築・都市計画の内藤先生は駅ビル、道の駅“ソレーネ”の設計で何回も周南に来ていただいた。周南を最も知る世界的権威。建物そのものが世界中からの見学対象になる。



市による「都市計画決定」が急がれるが、市は道路、公園等公共施設費用の1/3を負担することになる。

『緊急財政対策』

しかし、「緊急財政対策」を打ち出したばかりの市の財政は火の車。駅ビル周辺130億円、本庁舎110億円、その他計300億円を超えるツケが重い。

新規物件の維持管理費も、市庁舎2.3億円、駅ビル1.5億円等毎年の負担も重なる。



雑草しげる中心市街地

“花いっぱい運動を”

周南は、緑と花に恵まれている。

ところが、最近、市中心街には、雑草が茂り、国道のセンターラインにはゴミが散乱。道路の白線は消え、バリ

アフリーは未整備。

大道理の芝桜、桜通りの桜、永源山のつつじ、四熊のヒマワリ、長野山のササユリ、鹿野の枝垂桜、緑地公園の徳山桜等々。加えて道の駅“ソレーネ”の名物植木市。旧国道の桜、ハナミズキ、岐山通りのクスノキ、銀杏並木、ルピナスと枚挙にいとまがない。

人にやさしく自然と共生

周南も少子高齢化が進む中、商店街は手つかずのまま。市営住宅4軒に一軒は空家。

中山間も荒れ放題。熊・猪や猿が、最近では鹿やヌートリアまで出没。

耕作放棄地も5枚に1枚

今一度、『住みよさ日本一の町づくり』に挑戦しよう!

そこで、「市民みずからできることから動く。さあ、始めよう!」

住みよさ日本一に

1. 既存の町内の花屋さん、カフェ、画廊、写真館、呉服屋さん、本屋さん、パン屋さん等、昔なじみの商店に対し、景観条例を改正。建替、店舗改装時に援助。
2. コミュニティ、自治会等の自治組織を核に、「市民センター」を活動の拠点として、地域防災を始めとして、児童やお年寄り、ハンディのある弱い立場の皆さんを援助
3. ロータリー、ライオンズ、ソロプチ等の市民団体と協調する。
4. 周南文化協会、文化を楽しむ会等の各種市内の文化団体と共催する。
5. 明日を担う若い力を結集。大学、高専をはじめ、各種スポーツ団体、商工会議所青年部、JCに輪を拡大する。

大きな輪のコーディネイトとリーダー養成は容易ではないが、ハコモノ建設と共に、人材面の結集は街の活性化の礎になると思う。

“町に大きなうねりを!”

“ガンバル周南 面白く行こう!”

9月議会から開会の議場



9月議会の議場

9月議会は新庁舎5階の議場にて開会される。

5階は3,000m²、全体で20,400m²。総工費110億円+α、維持費年2.3億円。

傍聴席と記者席が議員席のすぐ後ろで、視線の高さが同じになる。

“ちょっとゆめ話”

スポーツで町おこし

フットサルをご存知ですか?

今、周南を中心に若い力が動き出す。若者を周南に集結する、フットサルのクラブチーム作りが始まっている。

チーム名は「周南ルキオス」。“輪”を意味するチェルキオと、“共に”のアンボスから命名。

700名の若者を要する周南フットサルリーグが母体となる。

最近、イタリアのプロチーム所属の2名の選手も市内に居を移した。

フットボールのレノファ山口に対して、「周南ルキオス」フットサルプロリーグの創立を応援したい。

“フットゴルフ”も市内で立ち上がる機運が高まっている。次の次のオリンピック種目ともいわれ、楽しみが増える。“スポーツ立市”を周南から!



フットサル「周南ルキオス」



川柳

宙に舞う 球児の夢に 師の涙
凜とした 所作に宿る 前さばき
孤高の士 一人会派に 活三昧
結界と 青梅ひとつ 道ふさぐ
～まだまだですが、お笑い下さい～

議員や市幹部子弟の採用は？

5月29日の市議会で「市職員の採用」について質疑。

「職業選択の自由があること、個人情報保護で家庭の事情は知り得ないことから、議員や市幹部の子弟を採用することに問題はない」と木村市長答弁。

今回、市ははじめて議員子弟の採用を認めると共に、市幹部子弟の採用もこれまで常態化していたこと、さらに試験方式を去年から面接重視に変更していたことを認めた。

「試験官である市長や副市長の子弟も採用するのか」の問いにも否定しなかった。

子弟が採用された場合、市政に影響をもつ議員の行政に対するチェックは大丈夫か？

『忖度(そんたく)』ない？

木村市長は、「試験の公明公正さは確保されている」と答弁。しかし、採用後の人事や配置の際、『忖度(そんたく)』の恐れはないのか？

実際、近隣の光や下松市では「そのような採用は考えられない。過去にも例がない」との回答。

職種や業務によっては、余人では不可もある。その場合でも、市はしっかりと説明責任を果たすことが求められるのでは？

『李下に冠を正さず』

周南市政治倫理条例には、第3条に「職員採用に市長、議員からの紹介、斡旋の禁止」が規定されている。

今回の件で、市は「法的に問題ない」と主張するが、条例には、議員の子弟の採用は想定外だったのでは？少なくとも倫理上の疑問は残るのでは？

7倍の『超難関』

7倍近い『超難関』の採用試験に応募し、願いの叶わなかった300名を超える受験生やその父兄のお気持ちはいかがなものだろうか？

職員一人当たり『約3億円』

職員一人当たり年間約700万円、退職金2,300万円、合わせて生涯賃金は約3億円。

納税者の視点からみれば、ひとつの家族で複数の市職員だと数億円の額に

上る。『市政の私物化』の声も。

『透明性』が肝心
透明性確保のための提言。

1. 国家公務員試験と同様に、筆記試験結果を公表し、面接試験は最終だけにする。
2. 採用数を事前に公表する。
3. 試験官の一部に専門有識者を招へいし、公平を期す。
4. 子弟の採用の場合は、市はその理由を説明する。

“これって変では”



市民館跡
駐車場

赤字400万円で有料化？

本庁舎に付随の約270台分の駐車場。平日2時間を超えると1時間当たり200円。設置費用に9,300万円かけて、維持費で毎年400万円の赤字。

今まで通りの駐車無料なら市民も喜ぶのに、無断駐車の不届きモノがいるから有料化とする？



修理待つ
市内道路

無駄な通報システム？

市道延長1,200km、東京の先までの距離。ところで、市の公用車400台。一台で、3km見回れば、一日で市内全部の見回り完了。通報システム代、数百万円の節約となる。見回りはもともと市の仕事では？

「自分のことは自分でしなさい」の「自助」は市のスローガンだった筈？



パワハラ
判決に揺れる
市民病院

パワハラで判決敗訴

5月28日、新南陽市民病院のパワハラによる裁判が報道された。医療公社と院長ら5人へ、2,150万円の慰謝料と未払い賃金の支払い及び復職命令が下っ

た。

判決の数日前に、議会に対して病院の事業計画や財務の報告がなされたばかりだが、この件の報告は全くない。

議会報告の要請に対して、ようやく6月5日に控訴すると報告。わざわざ山口市の弁護士事務所に依頼とのことだが、市の顧問弁護士や市内の弁護士に依頼できない理由は？

公社の理事長は副市長であり、負ければ数千万円と言われる裁判費用と慰謝料等を誰が負担するのか？

パワハラが事実認定されると数千万円の負担を市民は認めない。

“しゅうニャンし” キャンペーン

市職員 全国47都道府県行脚
経費590万円、人件費別。秋口からスタート。交通事故大丈夫か？の声。

全国で話題提供になるか、それとも無駄足になるのか？

イタリア製家具は？

本庁舎にイタリア製の家具が導入される。1階の市民待ち合わせ用。

デザインを重視し、設計会社の推薦によるという。

しかし、全長120mの駅ビルの天井は鹿野産で、その理由は地元材を優先とあった筈。新しい議場も地元材の活用がみられる。

地元材の利用や経費削減の発想がない。それとも何か他の理由があるのか？

5月末、3回目の入札でようやく仲介業者決定。落札額約1,000万円。納入時期は遅れて10月以降に？

東京のアルマーニの制服が世の批判を受けたが、“しゅうニャンし”のイタリア家具？

勿体なくて座り心地が心配？

速報 アーケード落下事故

6月3日、日曜日の昼下がり、徳山銀座商店街のオラレ前歩道に日よけと支柱が落下。

支柱は3.3m、重さ65kg。1994年の設置後24年間、本格的な点検はなく、今回人身事故がなかったことが奇蹟的といえる。

現場に居合わせた市民は事故の衝撃に声を震わせていた。

市は6月一杯までに点検と対策を求めるといっているが、早急な対策が求められる。



周南市政報告

焼け野原の惨状～市民の生命・財産があぶない
年頭に当たり、市民の皆様にも市政の惨状をご報告することは大変心苦しいことですが、市からの正確な事実の報告がなされているとは思えないことから、議員としての務めとして現状を報告します。

今、周南の経済界や市政は「焼け野原」の惨状を示しています。

大手企業の撤退からモノ造り・製造業の衰退がはじまり、その間産業構造の転換を図るといった次の戦略策定を怠ったことによります。

市政も、内向きの「利権の調整人」から、『利権の代理人』へ転落、その結末が大型汚職や官製談合事件となりました。

市民の生命よりコンサートが大切ですか？

7月の豪雨災害、島田川の堤防決壊、尊い市民の犠牲者が出ている最中、木村市長は現場報告を聞いていながら、「災害対策本部」の立ち上げの指示もせず、コンサートに出向きました。

陣頭指揮から逃げる

10月、豪雨災害直後の広島、岡山、沖縄や、地震被災の北海道へ『周ニヤン市』全国キャラバンを展開。「今この時期に何しに」とヒンシュクを買いました。

大型汚職事件で市長の友人逮捕

11月、前代未聞の「官製談合事件」で県警の新市庁舎立ち入り捜査が入り、工事契約の最高責任者の市幹部や市長の盟友である業者が『汚職』の容疑で逮捕されました。

市長行方不明の怪？

その時、木村市長は行方不明。木村市長はどこに？と大騒ぎでしたが、今もってご自身から当時の居場所の説明はありません。

金峰の殺人事件、コンビナートの爆発事故、豪雨災害発生時そして今回の汚職捜査等々、木村市長は、なぜか現場へ出向かれませんか。トップの指揮命令権を放棄している？との批判にどう答えますか？



〈読売・朝日・毎日・中国・新周南各紙引用〉

なぜ急ぐ？ 事件の幕引き

豪雨災害の謝罪や処分が半年たった今もなされていません。官製談合事件の方は、市広報の最終ページに申し訳程度の謝罪文が掲載された以外は、市長の新聞各紙の年頭挨拶文にも反省の弁が一言もない。

市長給与2分の1の減額が言われているが、該当する入札437件をしっかりと解明できたのか？

市長や副市長の事件への関与は無いのか？

この半年、木村市政二期目の晩節を汚すかのように、次から次へ問題が噴出し、「新庁舎に泥を塗る」行政に批判と驚き、市民の悲鳴が上がっています。

また工事の遅延・増額か？

行政無線の遅延と追加費用、市庁舎の完成遅延、免震、強化ガラス、1,000万円のイタリー製家具の問題発生そして官製談合による逮捕者まで、この半年で市長と副市長は何回となく市民に頭を下げてきたが、のど元過ぎればと新年の新聞紙上や各種団体への挨拶では官製談合事件には、言及されてません。

『節度』ある友人関係ですか？

それどころか逮捕の業者との友人関係の説明に疑問符が付いています。

「節度ある付き合い。市長になって、この8年で2~3回しか会っていない。」「選挙にも関与していない。」と議会で繰り返し木村市長は答弁してきました。

市長の土地に業者の看板

1月4日の記者会見で、実際は、南銀座“松下”に隣接の木村市長所有の駐車場の管理・営業を木村夫人が代表の会社を通して福谷社長が代表の『(有)福谷興産』に任せ、他の分と合わせ年間60万円から190万円の地代収入を得ていることが露見。裏で個人的に金銭収入を得ながら、市の仕事を年間7億円も出していたことも判明。

木村市長は「プライベートなこと」というが、市の入札業者との金銭のやり取りは、明白な『周南市政治倫理条例』違反ではないか？との指摘もできています。

木村市長の常套句に「選挙で市民が決めてくれる」とありますが、豪雨災害、官製談合と市民の生命財産に多大の影響を与えている事件に対して、いまだ自らの責任をはっきりさせず、責任逃れを続けることは許されません。市民に向けたキチンとした『説明責任』が求められます。

次世代は悲鳴？

新年度に『周南市緊急財政対策』が策定されているが、実効性に疑問符がつきます。周南市が直面する『少子高齢化』に逆行し、この数年で300億円を超えるハコモノに過剰投資。その維持管理費が駅前ツタヤ図書館や新庁舎等で毎年数億円、プラスされることとなります。

災害対応の貯金はすでに底をついています。そのため熊毛の復興が同じ被災地の岩国と比べ、遅れに遅れています。

「市長給与の50%カット」「ハコモノ見直し」の公約違反とともに、木村市長の責任は重く、免れるわけにはいきません。



〈この看板でも『節度』ある友人関係？〉

提言8点～『周南再生』を

- (1) 『市政の私物化』『汚職』を徹底的に撲滅し、『公正・公平・公明』な市政運営を再構築
- (2) 都市の再編に向け、周南の歴史的蓄積と地勢を元に流通・製造の有機的結合拠点を構築
- (3) “極東アジアの玄関”をめざし、“国際バルク港”の完成と笠戸～杵～大津島～長田を結ぶ“ベイ・ブリッジ構想”の検討
- (4) 天災が少ない利点を生かし、西日本の防災物品の備蓄基地を建設。また、防災対策費として年3%の積立を検討
- (5) 中山間部は、歴史と文化の継承。教育・AI拠点をソフト。栄谷トンネルの貫通や、道の駅(ソレーネ、熊毛)を媒介に6次産業化を推進
- (6) “健康とスポーツの町”としての“場”づくりを検討。高齢者の百歳体操やグランド・ゴルフの普及。武道館や土俵、会場確保によるプロ・リーグ化(例:フットサル・フットゴルフ)やイベントによる若者の居住・流入の促進
- (7) 駅前再開発を進めるなかで、市民ホール新設による市民の文化活動を支援
- (8) 次世代へのバトン・タッチと海外研修を含めた積極的な若手の育成



〈自分の身は自分で～子供も自主防災訓練〉